



子どもを育む 仲間で ありたい

里親家庭を
支える現場の声



やまかわ ひろのり
山川 浩徳さん
養育家庭支援センターきらきら
統括責任者・宇城市担当

熊本市内の社会福祉法人慈愛園内にある養育家庭支援センター「きらきら」。熊本県から里親支援業務の委託を受け、熊本市を除く県北部の里親希望者の発掘や研修、里親家庭への訪問などに取り組んでいる。

慈愛園乳児ホーム施設長の潮谷佳男さんときらきらの統括責任者で宇城市担当の山川浩徳さんに里親支援について、詳しく話を伺いました。

話せる関係づくり

潮谷 私たち「きらきら」は昨年12月に県からフォースタリング業務の委託を受けて開設した

事業所です。「フォースタリングって何？」と思われる人も多いかと思います。フォースタリングとは里親支援を意味します。私たちは里親だけではなく、里親希望者や支援に関わる全ての人と積極的につながり、受け入れていきたいと考えています。

山川 これまでは、里親支援専門相談員が1人で相談などを担っていましたが、委託を受けて支援体制を整え、より細やかにフォローできるようにになりました。

潮谷 私たちは、里親にも子どもにも幸せに過ごしてもらい

たいと思っています。それが私たちの目標でもあります。ここでは、みんなで育てることを大切にしようと話しています。なので、困ったことがあればいつでも手を挙げてほしいんです。子育てが楽しければ、里親制度の話も「楽しいよ」と伝わって、もっと増えるに違いないと思っています。

山川 潮谷施設長からは、信頼関係を大切にと言われています。支援が行き届けば、「里親は大切な役割を担って大変なこともあるけれど、楽しいよ」と言ってもらえるかもしれません。まずは「困ってい

ます」と話してもらえると関係性を築いていききたいですね。

潮谷 信頼関係の構築は、徹底していかねばなりません。

山川 そのために、まずは訪問ですね。顔を合わせれば、話せなかったことをきちんと話してもらえるかもしれません。必要な支援は何なのか、例えば、保育園や学校、病院などでの困り事や子ども自身にある課題をまずは話してもらえる関係を築きたい。行政や関係機関とも互いに理解ができるように、調整していきます。最近では「困っています」を段々と言ってもらえるようになってきましたね。

家族のカタチ

潮谷 里親と施設の違いは家族のカタチを見ることができるところです。たくさん話して家族を知ってほしい。子どもの成長の課程で必要な経験をさせてあげたいんです。私自身も、祖母を知らずに育ちました。結婚して祖母ができ、初めてイメージできるようにになりました。家族のカタチは

それぞれ違っているし、施設でも頑張っているけれど、家族との経験は家庭が持っている力なんです。

山川 子どもが子どもとして過ごせる時間を大切にしていきたいですね。施設では何事もイベントになってしまいます。

潮谷 ギョーザを作るだけでも計画書が必要なんです。衛生面もきちんと管理しなければなりません。ですから、よく言われるのは、施設の子どもたちは2日目のカレーの味を知らない――。

山川 家庭では「今日は一緒に料理しよう」「明日は遊園地へ出掛けよう」と突発的なできごとでも施設では全て計画的になっています。ただし、施

設は必要なもの。子どもの選択肢として大事な役割を果たします。

地域で育む

山川 まずは地域に里親さんがいることを知ってもらいたいですね。行政と連携し、各機関が横並びになって、子どもの育ちを考える仲間として協力していきたい。養育には地域の協力が不可欠。どこの窓口にも相談しても共有できるようにしていきたいです。

潮谷 私たちはこれからも普段からの関係を大切にしながら、里親家庭が幸せに過ごせるよう支援していきます。



しおたに よしお
潮谷 佳男さん
慈愛園乳児ホーム施設長



Aさん
高校生

Interview

施設から
養育里親家庭へ

新しい世界に飛び込んで良かった

里親制度のことを全く知らず、里親家庭になじめるのが不安でした。でも、みんながとても明るく、本当の家族のように接してくれます。

今は大学受験で大変だけど、みんなで応援してくれています。家族のことだけでな

く、私の悩みもいつも真剣に聞いてくれ、相談相手にもなってくれています。

こちらに来る前は、施設で過ごしていましたが、家庭的な雰囲気ですごく思いました。思い切って飛び込んで良かったと思っています。

Interview

養育里親から
養子縁組へ

いつも背中を押してくれる両親

3歳の時に一時保護され、宮津家へ。両親は大切に育ててくれ、いつも僕の背中を押してくれます。高校2年生の時に養子縁組。親子の実感は湧きましたが、二人は当たり前前の存在。関係性は何も変わりません。両親は非行少年の自立支援や青少年の育

成活動にも取り組んでいました。その姿を見て、大学進学を目指す傍ら、地域とのつながりを無くした子どものために「ふるさと元気子ども食堂」を始めました。子ども同士や地域とのつながりを大切にしていきたいです。両親も応援してくれています。



みやつ こういち
宮津 航一さん(17)
熊本市東区